九州大、シンポジウム

女性研究者活躍促進に関する国際調査報告

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）報告シンポジウム「女性活躍指標に基づく女性研究者活躍促進に関する国際調査」が３月24日、九州大学の椎木講堂コンサートホールでオンラインとの併用で開催された。

同シンポジウムは、令和３年度に同大が代表機関として採択され、東京工業大学を共同実施機関として進めてきた女性研究者の活躍促進に関する国際調査の報告を行うもの。

石橋総長

当日は、同大が実施する先端型事業「ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修（ＳＥＮＴＡＮ－Ｑ）」の中間報告を兼ねて行った。

開会にあたり、同大の石橋総長と東京工業大学の益一哉学長から挨拶があり、来賓として文部科学省人材政策推進室長の岡貴子氏、科学技術振興機構プログラム主管の山村康子氏から、調査分析事業及び先端型事業への期待のメッセージがあった。調査分析事業は、女性研究者の論文業績から算出した部局別定量解析データをもとに、世界各国のトップ大学と情報交換を行うことで、各部局の抱える問題を明らかにし、解決策を見出すことを目的としている。

第一部では、調査対象機関のカリフォルニア大学サンディエゴ校のサンドラ・アン・ブラウン元副学長、アーヘン工科大学のウルリケ・ブランツ イコール・オポチュニティ・オフィサーから女性研究者の現状と同事業への期待のメッセージがあり、続いて同大の玉田薫副学長と東京工業大学の野村淳子教授が調査分析事業の実施報告を行った。

第二部では、ＳＥＮＴＡＮ－Ｑの中間報告として、玉田副学長が事業概要を説明後、研修生の３名が、同プログラムで得られた経験や成果、今後の目標などについて報告した。

第三部では、石橋総長、益学長、ブラウン元副学長、ブランツオフィサーをパネリストとして、「すべての構成員が真に活躍できる大学環境を実現するには」をテーマとした総合討論を行った。最後に、東京工業大学の佐藤勲総括理事・副学長から閉会挨拶があり、シンポジウムが終了した。